



鈴鹿の風

2012. 1
第14号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



撮影者：院長 小長谷正明

Contents

- | | | |
|-----|-------------------|--------------------------------|
| 1 ■ | ごあいさつ | あけましてお目出度うございます。 |
| 2 ■ | トピックス① | 臨床検査のお仕事「パニック値」 |
| 3 ■ | 看護だより | 看護師研修を受け入れて |
| 4 ■ | トピックス② | 鈴鹿病院クリスマス会！ |
| | News | 佐藤言語聴覚士、国立病院総合医学会でベストポスター賞を受賞！ |
| 5 ■ | 療育通信 | 三重大学の講座にゲスト参加しました |
| 6 ■ | 地域医療連携室だより | 地域医療連携室の場所が移転しました |
| | 平成オタクコラム | プロ野球編7 |
| 7 ■ | 外来診察担当表／交通案内／編集後記 | |

あけましてお目出度うございます。 病院長 小長谷 正明

初夢は、一富士、二鷹、三茄子と申します。特に一番目の富士山は、正月のみならず、いつ見ても心が朗々として、本当に元気を頂いているような気になります。表紙は、日本アルプス上空の機上から撮った富士山です。雲をまとっていましたが、やはり神々しかったです。

その富士山や鷹にあやかり、今年こそ、平安のうちに明日への飛翔の年にしたいものです。さて今年も、いつも私の初夢に出てきた、鈴鹿病院のリニューアル化が茄子のなすで、成し遂げられようとしています。

この1月より、いよいよ病院の表玄関である、外来診療棟の改築工事が本格化します。三階建て、一階は外来、医事、薬局、検査、レントゲン部門が、二階は50床の病棟と、手術室および中央材料部、三階は事務や医局、当直室などの管理部門となります。総床面積は7,500平方メートルで、現在よりもゆったりした間取りで、ホールや廊下も広々としています。中央病棟とは一階と二階の廊下で繋がっています。もちろん、渡り廊下ではなく、今までより導線がずっと短くなり、安全に移動ができます。

この工事に、遭わせてMRI導入やCT、その他の診療機器の最新鋭化などをおこない、当然、診療業務の効率化と負担軽減のためにIT化も計画します。現在、電子カルテを検討中です。ともあれ、今年中には、古い庁舎からおさらばし、気分一転で、21世紀にふさわしい診療サービスができるようになります。

予定では、秋には新しい管理診療棟が完成し、暮れにはそこでの診療が始まります。ですが、建物だけが最新化するだけではいけません。医療の質や奥行きなど近代化や充実もしていくつもりですが、病院を取り巻く状況、特に人的環境は厳しいものがあります。その上で何とか努力しています。ご声援下さい。



トピックス①

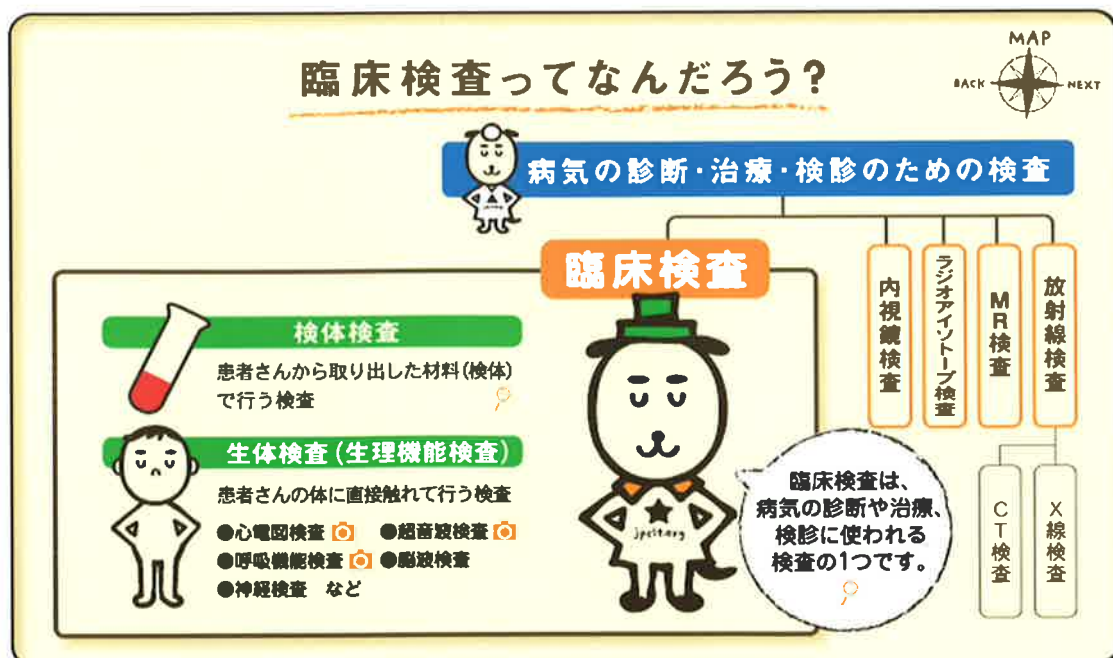
臨床検査のお仕事「パニック値」 臨床検査技師長 森田正道

皆様は、病院で「検査を受けますか」と尋ねられると迷うことってありますよね?良い結果なら安心して枕を高くして寝る、そうでない結果ならどうしようかと次々と不安な問い掛けが湧き上がってきますね。検査科では、検査を受けられる時のために日々精度管理を行って病態把握のための正確なデータに心掛けています。

日常検査の中では、皆様から採血された血液検体を分析していると極端に低いデータと極端に高いデータが得られることがあります。中には測りきれないほど高いデータがあり希釈してから再測定し他の検査データとの整合性と関連付けが成り立つかどうか検証してから報告しています。この時の極端に高い値(低い値)をパニック値と申します。

パニック値は、「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆し、直ちに適切な処置を施さなければ患者様の生命が危険にさらされる緊急異常値で、依頼医師等に報告するもの」です。私たちスタッフは、日常検査の中でそのチェックをしており、少しでも皆様の病態把握と治療との迅速性においてお役に立てればと考え、生化学検査、血液検査、血液ガス検査等にパニック値を設定しております。

これからも、医療に必要な、質の高い、信頼性のある化学的情報を提供し続けていきますので、どうぞ宜しくお願いします。



臨床検査振興協会HPより転載(<http://www.jpclt.org/>)

看護師研修を受け入れて

東2階病棟 副看護師長 森川 祐子



今回当病棟で国立病院機構の関連施設より、看護師研修の受け入れを行いました。

研修は、研修生の学びたいことを踏まえ、当院の重症心身障がい児看護の特徴である呼吸障害・ポジショニング・摂食機能訓練の方法とその実際を取り入れ、日々の処置やコミュニケーション、生活援助等の看護技術を中心に2週間の研修をしていただきました。

研修生は、重症心身障がい児看護が初めてのこともあり、医療的

ケアが必要な患者さんに触れることや看護実践に対し、戸惑いや不安があるとされていました。しかし、根拠に基づいたケアを日々実践していくことで、「必要性が理解できた、多くの体験ができ今後役に立っていきたい」との声が聞かれました。また一人一人の患者さんの看護は、受け持ち看護師だけでなく、先輩看護師のアドバイスを活かした活発なカンファレンスや、全スタッフへの実技指導により、統一した看護ができていくことも実感されていました。当院で取り組んでいる看護を理解していただけたことをはじめ、多くのことを学んでいただけたことは、病棟看護師の大きな励みとなり、大変嬉しく思います。

今回の研修生の受け入れは、私たち自身の振り返りや日頃行っている重症心身障がい児の専門的な看護技術やケアが、院外の医療従事者に対して提供できる機会となりました。今後もこのような研修の受け入れをする中で、看護のレベルアップと、鈴鹿病院の良さをどんどんアピールできるように取り組んでいきたいと思ひます。



トピックス②

鈴鹿病院クリスマス会!

療育指導室

12月7日(水)に筋ジストロフィー病棟クリスマス会、12月9日(金)に東2階病棟クリスマス会、12月12日(月)に西2階病棟クリスマス会がありました。

ゲストやボランティアの皆様等、たくさんのご協力のおかげで、楽しいクリスマス会となりました。ありがとうございました!!



富山喜子様、てるちゃん、シャンティ様、中村好江わくわくHOT3の皆様

News

佐藤^{言語聴覚士} 国立病院総合医学会でベストポスター賞を受賞!

第65回 国立病院総合医学会

言語聴覚士 佐藤 伸

平成23年10月7日・8日に岡山県で第65回国立病院総合医学会が開催されました。日頃、臨床現場で得た事や学んだ事を発表する場として、絶好の機会だと思ひ発表する事にしました。今回は「骨盤前傾姿勢による脊髄小脳変性症患者の爆発言語の改善」という演題を発表しました。内容は脊髄小脳変性症の発話特徴には酔っばらったように話してしまう爆発言語が現れる事があります。この爆発言語を話す患者に対して、骨盤を前傾させるクッションを使用し、音声解析ソフトで使用前後の音声の比較をした所、



明らかな改善が見られました。この方法は、パーキンソン病の嚥下困難の改善に骨盤が前傾姿勢になるクッションを作成し使用した所、嚥下がスムーズにできた事をもとに、喉頭の動き、呼吸の改善から発話をスムーズにする事を目的に使用したことが発端です。このように言語聴覚士のリハビリは摂食嚥下以外にも、発話の分野もおこなっておりますので関心のある方はぜひご相談ください。



療育通信

三重大学の講座にゲスト参加しました ～東1階病棟の吉良輝治さん、西1階病棟の海野亮太さん～

療育指導室長
愛田弘美

11月1日、三重大学の講座「障がい学生支援」(菊池紀彦准教授)に吉良さん、海野さんが講義にゲストとして参加しました。大学の講義に参加といっても外出は大変なこと。

そこでインターネット回線を用いたテレビ電話を利用し、吉良さんは図書室から、海野さんはベッドサイドから三重



大学の講義に参加しました。お二人とも趣味のこと、今楽しんでいること、生活の様子など学生さん全員と30分ほど話し合いました。

吉良さんはたくさんの学生さんの前で話をするのにびっくりし、少し疲れたが楽しかった。海野さんは病院外の人と話せて楽しかったが、病院生活をうまく伝えるのは難しい、テレビ電話のような便利なツールをもっと広めたい。学生さんたちは「お二人の貴重な体験を直接、聞くことができてよかった」と感想を述べられていました。

吉良さん、海野さんお疲れ様でした。



地域医療連携室だより

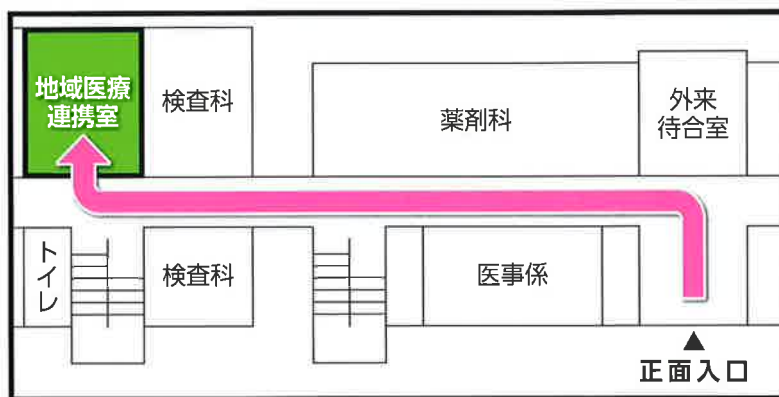
地域医療連携室の場所が 移転しました

医療福祉相談係長 村松 民幸
医療社会事業専門員 乾 大介
地域医療連携係長(看護師) 林 みどり

地域医療連携室は、皆様に安心して医療を受けて頂けるよう、鈴鹿病院内に設けられた相談窓口です。経験の豊富な看護師、ソーシャルワーカー（社会福祉の知識と技術を持った専門家）が配置されています。診察時や入院時の相談、診療科、入院療養中や退院後の生活について等々、他の医療・福祉施設や行政機関などと連絡をとりつつ、皆様のさまざまな疑問や不安に対応します。一人で悩まず「よく分からない」「どうしよう…?」と思われた時は、お気軽にご相談下さい。

場所は、病院の正面玄関から入ってすぐ左側へ、廊下つき当りの右側です（新築工事期間中）。受付時間は、月曜日～金曜日 午前8時30分から午後5時15分（土・日・祝祭日・年末年始を除く）です。病気やケガ、障害によって生じた不安や困り事、抱えている問題が、1日でも早くよりよい解決ができるように応援します。

地域医療連携室に相談ポストが設置されましたのでご利用ください。個人情報保護法により個人情報は守られますのでご安心下さい。



平成オタクコラム プロ野球編7

神経内科部長 久留 聡

平成23年のセ・リーグは中日ドラゴンズが球団史上初の連覇を成し遂げた。クライマックスシリーズも勝ち上がって日本シリーズへ出場したが、惜しくもソフトバンクに敗れ日本一を逃した。シーズン途中一時は首位に10ゲーム離され優勝が危ぶまれた時期もあったが、終盤9月、10月の猛烈な追い上げは見事であった。その中で起こったのが落合解任劇である。シーズン途中で監督交代劇は時々あって、大抵の場合は成績不振が理由となるのだが、今回の場合は優勝争いの真只中ということではやが上にも注目され様々な憶測を呼んだ。ここで思い出されるのは、2006年の日ハム新庄である。彼の場合、まだシーズン序盤に早々とその年限りでの引退を表明し話題となった。しかし、引退表明後も活躍を続け、観客動員も増加、チームは何と日本一まで上り詰め、これ以上ない有終の美を飾った。一主力選手の引退表明がチームの躍進につながった前代未聞のケースである。今年のドラゴンズに関して、監督辞任（解任？）表明後に、むしろ勢いが加速して連勝につぐ連勝で最終的に宿敵ヤクルトを抜き去った。振り返れば、開幕戦の川崎憲次郎先発や完全試合目前の山井交代など数々のサプライズでファンを楽しませてくれた落合監督であるが、解任された年に優勝を飾るといった劇的なエンディングが待っていた。それだけに7戦までモツレこんだ日本シリーズを獲れなかったのはかえすがえすも残念であった。

外来診察担当表 (2012年1月1日 現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	小 長 谷 松 本	小 長 谷	久 留
内 (循 環 器 科)	安間(第1・3・5) 棚橋(第2・4)	木 村	安 間 (循 環 器)	安 間 (循 環 器)	棚 橋 (循 環 器)
小 児 科				予 約	
整 形 外 科		田 中(信) 午後(装具)			田 中(信)
リハビリテーション科					田 中(信)
歯 科	山 口		松 村	永 田	
皮 膚 科		高 間			

- ◆ 外来受付は8:30～ 11:00、診療開始は9:00～です。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三交バス(荒神山口行き/椿大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

◆ 発行

平成24年1月

独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501

三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号

Tel. 059-378-1321(代)

Fax. 059-378-7083

<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

大災害のあった年が過ぎ、新しい年が始まりました。鈴鹿病院も新外来管理診療棟の完成する新しい年となります。

今年の鈴鹿病院はさらに充実した医療を、「鈴鹿の風」も様々な情報を提供したいと思います。

(海野 学)

※写真は本人の許可の下、掲載しております。